

山麓探偵団通信

12月号

霜のおりる朝、この春からの未曾有体験の日々が、寒風となつて頬をなでていきます。けつして、心地よい風ではないものの、拒むこともできず、じつと受け入れる構えになりました。

大きな試練は、植物や動物、土壌にとつても同じで、冬になれば、華やかさや暖かさに紛れることができないので、人間もいつそう、その痛みを感じてしまうでしょう。

その中で、せめて家族や仲間との絆にほつとできる時を、積み重ねていきませんか。山麓探偵団も、自然の中を歩きながら、そうした絆のひとつになれたら幸いと思うようになりまし。

◆参加者の感想

「描くことは自然観察」という趣旨にひかれて、自然細密画家の木村修さんの探偵団活動には、毎年参加しています。

昨年までは、昆虫や植物を対象に「虫の目」になった気分、細かい筆先に意識を集中する一日でした。光の具合で微妙に変わる自然の色は、どの色とどの色を、どのくらいの割合で混ぜたらいいのか、パレットの前で悩んでしまいます。

そんな時、木村団長は、予想もしていなかった絵の具を混ぜ合わせ、昆虫や植物のうなるような「色つくり」をします。まるでマジシャンのようです。

さて、今回は、「富士山を描く」というテーマで風景画です。

朝十時前に木村団長のアトリエ兼ギャラリーに到着し、スタートまでの時間に、毎年アメリカで開催されている「バーズ・ゴ・アート」のコンテストに出展した作品や入賞した作品の原画を鑑賞しました。

それぞれの作品の、鳥の表情、木肌の質感、コケの湿り具合、打ち寄せる日本の波の音、雲のたなびきなどを描き出している原画の筆あとを確かめながら、今日の活動の心の準備運動をしました。

まず、富士山と山中湖が一望できる木村団長宅の裏山までハイキングです。一面スキの野原を二十分ほど歩き、富士山の勇姿と湖、それに南アルプス連峰が見渡せる土手に腰を掛け、スケッチブックを広げ、鉛筆と練り消しゴムを交互にはしらせませます。

ところが、パウダーシュガーのような雪をかぶった富士山の頂上、南側から湧いてきた綿菓子のような雲に、みるみる隠れていきます。

慌てて、頭の中に残っている稜線や山肌の色スケッチブックに

写し取っていきましました。

午後からは、木村団長のアトリエで色付けをしました。

やはり、山肌の色や枯れた森や林の色などは、何度も木村団長のマジックハンドに頼ってしまいました。つくっていただいたパレットの色を筆にとり、スケッチブックに載せていくのですが、どうしても遠近感や陰影が単調になつてしまいます。色合いを重ね塗りしながら、なんとか時間内に一枚の風景画ができました。



「小さいスケッチブックでいいから、気楽に何枚も描いたらいいですよ」という木村団長の励ましですが、年に一度しか開かないスケッチブックに、今年も一ページの作品が残りました。(J・H)

◆十二月の探偵団活動「案内森の中で、感じるままに心のままに」

アルピニストの戸高雅史さんを団長に、今年最後の活動のご案内します。

今年、言葉にできないほどのいろいろなことがありました。

師走の一日、登山ではなく、富士山の南麓の森を、ゆっくり散策するコースですので、お気軽にご参加ください。

◇

日時 12月15日(木)

集合 午前9時に旭日丘「セブ

ンイレブン」隣の駐車場

参加費 2300円

持ち物 昼食・防寒着・雨具・

マイカップ・双眼鏡など

○ 申し込み・問い合わせは三日前

までに、電話かメールでお願い

します。

~~~~~

尚、来年の一月は伊藤浩美さんを団長に、一月二十六日(木)を予定しております。

今年も、一年無事で楽しく活動することができました。少し早いですが、よいお年をお迎えください。

### 発行 山麓探偵団 事務局

山梨県山中湖村平野一六九八

電話 〇五五五・六五・七〇二三